

ソーシャルビジネス・ネットワーク



平成2年4月1日～令和3年3月31日
年次レポート

S B N

ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

代表理事からのご挨拶

いつも「ソーシャルビジネス・ネットワーク」(SBN)をご支援いただき、ありがとうございます。SBNも今年でちょうど設立10年の節目を迎えました。思い起こせば、SBNがスタートするのとほぼ同時に東日本大震災が勃発したのです。巨大地震と大津波、そして未曾有の原発事故という大惨事の中でSBNは誕生しました。文明の在り方が問われ、私たち日本人の生き方も問われました。復興に向かう流れの中で「ソーシャルビジネス元年」という新しい言葉も生まれました。社会が変わるかもしれないという機運の中でSBNの活動はスタートしたのです。

あれから10年。日本は、いや世界は新たな試練の中にいます。2019年末に中国の武漢市から発生した新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に広がり、2021年7月末には感染者数約2億人、死者420万人に達しました。日本でも多くの企業が倒産に追い込まれ、飲食店も苦境に立たされています。スポーツ、芸術、文化活動などにも大きな影響が出ました。多くの人々が日本は今後どうなるのだろうと不安に思っています。

コロナ禍で新たな貧困、差別が生まれています。農村や地域社会、福祉、教育など従来から問題が指摘されていた分野にも深刻な影響が出始めています。再び文明の在り方、人間の生き方はどうあるべきかが問われています。また、企業経営の在り方も問われています。コロナという世界を一変させるような事態に直面し、私たちは改めて多様な生き方を認め合い、お互い助け合って生きる社会の必要性を強く感じます。

この10年の「ソーシャルビジネス・ネットワーク」の知恵と経験、行動力がいまこそ試されようとしています。コロナ禍を生き抜き、新しい社会を創造するためにも、ぜひ皆様の力を「ソーシャルビジネス・ネットワーク」にお寄せいただきますようお願いいたします。



一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
代表理事 藤田和芳

目次

I. 事業報告・事業計画	3
1 事業活動報告・事業活動計画	3
1.1 シフトラボ事業	3
1.1.1 地域シフトラボ	3
(ア) 陸前高田市での展開	3
(イ) 静岡市での展開	6
1.1.2 ビジネス・シフトラボ	10
(ア) IBM SkillsBuild プロジェクト	10
(イ) 社会デザイン・ビジネスラボ(SDBL)	11
(ウ) 丸の内プラチナ大学	12
1.1.3 フォーラム	14
1.1.4 コミュニティ	14
(ア) 自然エネルギー・シフト コミュニティ	14
(イ) 障がい者雇用コミュニティ	15
1.2 社会事業家 100 人インタビュー	15
1.3 政策提言(アドボカシー活動)の推進	15
1.3.1 「ソーシャルビジネス白書」の発行	15
1.3.2 「首都圏若者サポートネットワーク」への協力	15
1.4 令和3年度からの当面の事業計画案	16
2 組織運営報告・組織運営計画	18
1.1. 会員について	18
1.2. 広報・PR	18
1.3. 定例会議	18

I. 事業報告・事業計画

1 事業活動報告・事業活動計画

【継続事業】

1.1 シフトラボ事業

地方創生や SDGsなどをテーマとし、「地域シフトラボ」や「ビジネス・シフトラボ」などのプログラムをもとに、ビジネスパーソンを対象としたプログラムを展開すると共に、法人・国・自治体への重点的な営業開発、事業開発を図る。

1.1.1 地域シフトラボ

(ア) 陸前高田市での展開

①「ユニバーサル・タウン陸前高田」創造事業～雇用の受け皿、[発酵パーク CAMOCY](#)の完成

(1) 令和2年度事業報告

平成29年度～令和元年度「ユニバーサル・タウン陸前高田」創造事業の流れを令和2年度も継続し、当初事業は令和元年度をもって終了する予定であったが、陸前高田市の土地の嵩上げ完了が2年遅れたことにより、一部の事業（「発酵パーク・CAMOCY（※注1）」＝ユニバーサルな雇用の受け皿の完成が令和2年度にずれ込み、SBNとして事業推進予算がない中でも建設物や事業が完成・始業するまで支援を行った。さらに、当事業の建設費を捻出するために令和元年度より、津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金への申請支援を行い、当補助金により令和2年12月に建築物が完成し、商業・文化施設「発酵パーク CAMOCY」が開店した。令和3月グランドオープン。現在、コロナ禍の影響を受けながらも、地元の顧客や仙台、盛岡からの来訪者で順調に運営されている。

※注1「発酵パーク CAMOCY」について

発酵をテーマとした、地域の様々な事業者、市民団体、教育機関等との連携による、地域や消費者の健康に資する食やサービス等の研究・開発、製造・販売の拠点「発酵関連商業・文化施設」。事業の主体は、株式会社醸（カモシー）というまちづくり会社が担い、200年以上の歴史を持つ地元の醸造事業者、株式会社八木澤商店の呼びかけで、食品の製造・販売・飲食業、関連する生活雑貨の販売、および自然エネルギーを製造・販売する地域エネルギー事業者、東京からの参入事業者含め、合計7事業者で設立され、市内の今泉地区に商業・文化施設「CAMOCY(カモシー)」を令和2年12月に開店。創出する価値は、「発酵文化の楽しさ」「健康」「循環」「ユニバーサル就労」代表取締役は、田村満フェロー。



■店舗紹介

	経営母体・代表者	店名と★概要
1	田村満フェロー	★毎日食べたいパン屋さん 「BAKERY MAaLo (ベーカリー・マーロ)」
2	河野通洋フェロー	★発酵食品を使ったおひつ膳と甘味 「発酵食堂 やぎさわ」
3	同上	★世界中の発酵食品のお店 「CAMOCY 発酵 MARKET」
4	富山泰庸フェロー	★世界初の薬剤師が手がける bean to bar チョコレートの製造・販売 「CACAO broma (カカオブローマ)」
5	熊谷克郎(個人事業主)	★クラフトビール醸造所・ショップ 「RIKUZENTAKATA MICROBREWERY (陸前高田マイクロブルワリー)」
6	柴田隼人(個人事業主)	★発酵食品を使ったお弁当と惣菜 「gentil (ジャンティール) DELI and BENTO」
7	小出浩平フェロー	★陸前高田を元気にするエネルギー 陸前高田しみんエネルギー
8	(株)and recipe 本社:東京都 代表取締役 山田英季 代表取締役 小池花恵	★展示や物販など、ポップアップスペース 「2坪」

(2) 令和3年度事業計画

「発酵パーク CAMOCY」の運営会社である(株)醸(カモシー)による事業推進に関わりながら、経営企画や営業企画でのサポートや東京・その他地域とのコーディネートなど、継続的にプロデュース支援を行う。

②東京丸の内と連携した地場産品ブランド化推進事業・基本方針策定業務、および展開業務

(1) 令和2年度事業報告

震災後9年を経た陸前高田市において、ポスト復興期ともいえる段階に入りつつある令和2年度
の取組みとして、持続可能な産業振興を推進する戦略の一つという位置付けで、中村正明アドバ
イザーと連携して「東京丸の内と連携した地場産品ブランド化推進事業」を実施した。市内の伝統
的な産物やそれを支える技術、新設された商業施設や開発されつつある商品・サービスを、東京
などの重点的な消費地や先進的な消費者の発想やその交流によって、時代に即した新たなブラ
ンド化を図った。それにより新たな市場開拓や販売促進を行う計画を推進するとともに、市内組織
とも連携し持続可能な成果の蓄積を目指す。本業務では、今後の計画策定および計画推進にお
いて、そのベースとなる基本方針の策定とそれを実証する事業計画の立案を行った。

具体的な業務内容 (1)効果的なブランディング、プロモーション事例の分析 (2)陸前高田にお
けるブランディング、プロモーションの課題および可能性の分析 (3)陸前高田におけるブランディ
ング、プロモーションに関わる基本方針案の作成 (4)上記基本方針案に基づく事業計画素案(事
業仮説含む)の作成、さらに、持続可能な産業振興を推進する戦略の一つという位置付けで、「東
京丸の内と連携した地場産品ブランド化推進事業」を実施。市内の伝統的な食文化や産物、新設
された商業施設や開発されつつある商品・サービスを、東京などの重点的な消費地や先進的な消
費者の発想や交流によって、時代に即したブランディングを図り、地産地消・地産外商を目指した
市場開拓や販売促進を進める企画開発及び事業を推進した。本業務は、基本方針の検証を進め
ながら、東京丸の内と連携した地場産品ブランド化のための体制を構築し、商品開発およびテスト
マーケティングの試行を通じた枠組みの構築を図ることを目的とした。

具体的な業務内容(1)地元での情報収集と協力体制構築。地元生産者・事業者に対して、地場
産品ブランド化に必要な情報についてヒアリング調査を実施。また、東京・丸の内の有識者による
セミナー等も実施しつつ、地元における生産・加工・販売を担う各関係者による協力体制の構築に
ついて協議した。(2)都市部での消費者や事業者等との連携体制構築。東京丸の内の地場産品
販売業者やレストラン関係者、及び食育普及活動を実施する栄養士等のグループと連携し、安
心・安全やオーガニック、ナチュラルといった社会性・未来性に紐づく価値観により、消費者と生産
者・事業者双方のコミュニティを結び付けて、陸前高田の地場産品を活用した地産地消・外商推
進へ向けた協働による事業を立案・実施。(3)ブランディング企画(仮説)の立案と商品開発の実
証。地元でのヒアリング調査や情報収集を基に、東京丸の内と陸前高田双方の関係者の協働に
より、陸前高田の持つ食文化や復興支援を通じて構築された絆を生かす形のブランド企画を立案
するとともに、その企画に基づいた商品開発としての試作品の制作を行った。(4)テストマーケ
ティングの場の創出。(3)で開発された試作品について、丸の内のショップやレストランにおいて販
売や試食会等によるテストマーケティングを実施。(5)情報発信によるプロモーションの企画・実
証。陸前高田の地場産品や伝統食について、それに関わる人やストーリーにも焦点を当てつつ、
都市部の消費者の感覚・関心に合った形で情報発信・PR をするための WEB をベースにしたメデ

イア事業を企画・実施した。

(2) 令和3年度事業計画

継続的に商品開発などの取組みを進めるとともに、地場産品ブランド化を推進する上で、付加価値の創出について競争優位性もある戦略的なコンセプト構築と戦術的な展開、また再現可能性のある展開として持続的にトータルプロデュースが可能な協働型のプラットフォーム形成を図るべく勉強会などを行う。

③東京農業大学・ワタミグループ連携推進事業

(1) 令和2年度事業報告

中村正明アドバイザーがコーディネートする東京農大と、小出浩平フェローが責任者のワタミグループによる、陸前高田市ワタミオーガニックランドをフィールドとした、環境配慮型の有機的農業の土壌・基盤づくりなどをテーマにする長期的な連携を目的とした取組みに関して、調整を主としたプロデュース支援を行った。

(2) 令和3年度事業計画

関係二者の連携協定締結やオーガニックランド・オープンを踏まえ、健康食材としての商品開発などをテーマにした具体的な取組みについて、更なるプロデュース支援を行う。

④「6次化デザイン・ラボ(仮称)」組成

活動ユニットの創発による連合/連帯組織形成の観点から、東京農大やそのOB人材とのコラボレーションにより、陸前高田市や他地域での6次産業化のコンサルティングや事業化サポートを行う「6次化デザイン・ラボ(仮称)」の組成を検討する。

(イ) 静岡市での展開

加藤康之 顧問の協力のもと、内閣府「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」事業を展開。就職氷河期世代に対して、望まれるダイバーシティ社会に即した新たなキャリアデザインの考え方によるハイブリッド型サードプレイス「ライフデザイン・ビレッジ」創設により、社会的就労も視野に入れた「社会的居場所」としての機能に加え、リカレント教育としてのオンライン IT 研修プログラム「Skills Buildステーション」の機能も兼ね備えた、今後他地域に水平展開も可能な社会的創発プラットフォームとして実現する。以下の事業を展開。

(1) 令和2年度事業報告

- 実態調査による対象者ニーズの把握及び既存地域支援機関等の連携可能性の分析業務

【調査目的】

就職氷河期世代の支援対象者やその家族へのニーズ把握等実態調査を行い、就職氷河期世代向けの支援体制構築の可能性を分析する。

【調査期間】2020年11月～12月

【調査形態】：静岡市ひきこもり地域支援センター「DanDan（だんだん）しずおか」の支援員が保有する調査対象者の情報をもとに、リモート（zoom）でヒアリングを実施した。また、個別ヒアリングについては調査対象者2名に対してリモート（zoom）にてヒアリングを実施した。

【調査対象】：静岡市ひきこもり地域支援センター「DanDan（だんだん）しずおか」が支援をしている就職氷河期世代の支援対象者。

【ヒアリング人数】：57名

【全体的傾向】

- ・支援対象者の引きこもり期間が長期になるほど、就労意欲は低くなっている。
- ・支援対象者の中には、就労を諦めている人は少ないが将来的には何らかのの仕事に就きたいと考えている人が多い。しかし、大半の人は具体的に何をすべきかについて見だせていない。
- ・支援対象者は自己評価が低い傾向があるため、何事にも消極的。それを見直すきっかけづくりが必要だと考えられる。
- ・また、引きこもり歴が長い支援対象者は、社会との関りが少ないため社会経験が少なく、就労意欲を高める以外に社会復帰に向けた支援が必要。

【就職氷河期世代の特徴】

- ・対人恐怖を感じている人たちが多く、強く対人恐怖を感じている人ほど社会への参加意欲は低い。
- ・会話は積極的にすることはなく、自分の気持ちを他者に伝えるのは上手くない。
- ・一度社会に出てから引きこもった人に関しては、就労意欲が極端に低い人もいるのでヒアリングで現在の状況を把握する必要がある。
- ・経済依存している親世代が高齢化しており、親も支援対象者も将来に危機感を感じている。

- 対象者向け支援及び地域における人材育成支援のデモンストレーション実施業務

- 対象者やその家族の動機付け、支援ニーズの掘り起こしのためのセミナー開催

【開催日時】

第1回：2021年2月3日（水）14時～15時30分

第2回：2021年2月10日（水）14時～15時30分

【講師】

梅本龍夫氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授

臼井清氏 合同会社志事創業社 代表

【司会進行】

町野弘明 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事

【開催形式】

会場(静岡市地域福祉センター「みなくる」地下交流ホール) + オンライン(zoom)

【参加人数】

第1回:オンライン9人、会場1人、合計10人

第2回:オンライン10人、会場2人、合計12人

【開催内容】

対象者やその家族の動機付け、支援ニーズの掘り起こしのためのセミナー開催を開催。ライフデザインビレッジや人生の再編集/解釈の再定義を行う「物語マトリクス理論」の説明とライフデザインについての解説。「物語マトリクス理論」とは、偶発的な創発やイノベーションを促進する仕組みで、同じ「事象」でも「解釈」はさまざま、知覚している世界は人によって全く異なる。物語はいつでも再編集でき、解釈と意味づけは可変、可能性は無限にある。“ライフレコード”から“ライフストーリー”への意識を変える。

● 就労に向けたスキルアップ支援実施

【開催日時】

第1回:2021年2月16日(火)14時~15時30分

第2回:2021年2月19日(金)14時~15時30分

【説明者】

石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 事務局

【司会進行】

町野弘明 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク専務理事

【開催形式】

会場(レイアップ御幸町ビル) + オンライン(zoom)

【参加人数】

第1回:オンライン6人、会場2人、合計8人

第2回:オンライン6人、会場3人、合計9人

【開催内容】

支援対象者の就労に向けたスキルアップ支援についての説明会を開催。SkillsBuild とは、IT 人材を育成することで、就職氷河期世代やコロナ禍で働くことに影響を受けている方々などに対する就職支援に寄与することを意図した、日本IBM社が展開する社会貢献活動。説明会では、概要説明の他に SkillsBuild で提供される学習プログラムや各種支援サービスや登録・使用方法等、SkillsBuild を学ぶことで IT 分野への仕事に繋がられるかの説明を行った。支援対象者の利点としては、学習プログラムや各種支援サービスは無償で提供されていて、インターネット環境と PC があれば自宅からでも学ぶことができる。学習プログラムには社会人基礎力なども用意されていて、学ぶ側の状況に



合わせて学べる。Webデザイナー等の専門職に就くことも視野に入れ、同社のボランティアによるコーチング・サポートを受けることも可能で、「分からなければ何度でもコンテンツを学ぶことができる。

- 既存支援機関の支援員や民生委員など地域における人材を対象とした人材育成支援プログラム実施

【開催日時】

第1回:2021年2月26日(金)10時~15時

第2回:2021年3月4日(木)10時~15時

【講師】

梅本龍夫氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授

臼井清氏 合同会社志事創業社 代表

【司会進行】

町野弘明 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事

【開催形式】

会場(レイアップ御幸町ビル)+オンライン(zoom)

【参加人数】

第1回:オンライン8人、会場1人、合計9人

第2回:オンライン9人、会場1人、合計10人

【開催内容】

ライフデザイン講座を実施。

【第1回】

支援者向け、ライフデザイン法に基づき、ライフデザインのプロセスを体験・習得してもらうためのワークショップ・プログラム。ライフレコード(事実に忠実な履歴書)を記述するワークを通して、自分では客観的と思いついていたことが偏った主観に基づくという気づきを得る。ライフレコードを作成することで、根本の「なぜ?」という質問が浮かんでくるので、受講者同士で語り合うことでライフストーリーを作成する。それによって過去の人生の再認識、再編集プロセスを体験する。これにより受講者は深い気づきを得て、自分自身の心に初めて素直に触れ、本来の自己をいきいきと生きることについて考えられるようになり、第2回でライフデザインの作成に繋がる。

【第2回】

支援者向けに、ライフデザイン法に基づき、ライフデザインのプロセスを体験・習得してもらうためのワークショップ・プログラム。第1回で過去を見つめ直すことで、未来の景色を変容することを体験した。それをもとにライフデザインという理想の人生のプロトタイプ(冒険プラン)をデザインし、受講者と冒険プランを共有・意見交換をすることによって、実現に向けての段階を進めた。

最後にライフワーク(冒険の旅)として、講座内で考えた理想の人生の可能性(冒険プラン)をいくつもトライすることで、生きるプロセスそのものがライフワーク(冒険の旅)となるということを伝えた。

- 調査結果及び事業のデモンストレーション実施を踏まえた事業基本構想の策定業務

(2) 令和3年度事業計画

- 基本計画の策定に向けた関係者ワークショップ実施業務
基本計画の策定に向けて、対象者やその家族、既存支援機関等関係者とのワークショップを実施する。
- 対象者向け支援及び地域における人材育成支援プログラムを静岡市の特徴を活かした形にするための実証実験実施業務
 - 対象者やその家族の動機付け、支援ニーズの掘り起こしのためのセミナー等を開催
実施回数:3回以上、延べ参加人数:150人以上
 - 就労に向けたスキルアップ支援実施
実施回数:3講座以上、延べ参加人数:60人以上
 - 既存支援機関の支援員や民生委員など地域における人材を対象とした人材育成支援プログラム実施
実施回数:3講座以上、延べ参加人数:75人以上
- 上記の実施結果を基にした持続的な支援体制構築に向けた基本計画策定業務
上記で実施する関係者ワークショップや、実証実験の結果の分析等を踏まえた、今後の持続的な支援体制の基本計画の策定

1.1.2 ビジネス・シフトラボ

(ア) IBM SkillsBuild プロジェクト

日本 IBM からの гранツにより、スキルアップやキャリアアップに意欲のある女性、就職氷河期世代の方々、コロナ禍において、働く上で影響を受けている方々を対象とし、IT スキルを身に着けることによる再就職を支援する、オンラインラーニングプログラムの提供、社員による個別サポート等を行う事業「IBM SkillsBuild プロジェクト」を展開。SBN 内に「SkillsBuild 委員会」設置し、SBN フェローとして就任いただく SkillsBuild 委員の所属する組織を運営パートナーとした展開を図る。運営パートナーの開拓に当たっては、鈴木均理事の協力を得た。令和 2 年 1~3 月の事業開発フェーズでは、次年度以降の事業内容を検討し、令和 2 年 4 月より運用を開始。令和 3 年度も引き続き運用を継続。

- 運営パートナー
 - 株式会社キャリア・مام
 - 株式会社ゼネラルパートナーズ
 - 株式会社ママスクエア
 - 株式会社リヴァ
 - 一般社団法人 be.らぼらとり(MamaBee)



一般社団法人 Vielfalt
ウーマンネット株式会社
特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
株式会社 Waris
特定非営利活動法人 Lino
陸前高田市ユニバーサル就労支援センター(公益財団法人 共生地域創造財団)
一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会
駒ヶ根市
NPO 法人札幌チャレンジド
認定 NPO 法人 宝塚NPOセンター
公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会
NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ
特定非営利活動法人 宮崎文化本舗
株式会社 MammyPro
公益財団法人 オリオンビール奨学財団
株式会社グーニーズグループ

- 参加者: 約 3,200 名(令和 3 年 6 月末時点)

(イ) [社会デザイン・ビジネスラボ\(SDBL\)](#)

中村陽一常任顧問が所長を務める立教大学社会デザイン研究所と株式会社 JSOL にて、令和元年 12 月 12 日に設立した、社会課題解決と新規ビジネスを創出する研究会「社会デザイン・ビジネスラボ」からの依頼により、ソーシャルビジネス開発に関するネットワーキングやアドバイスをを行う。

【主な事業内容】

- テーマ研究会
個人・企業からの参加者がその専門性にに基づき、自由に意見を出し合い、ICT などのテクノロジーを活用し、社会課題の解決策から新たなビジネスの創造を目指すワークショップ形式での研究会。
- 社会デザイン・アントレプレナーズ・カフェ
社会デザイン・ビジネスを行うゲストを招いた、少人数でのディスカッションを中心とした勉強会。

(1) 令和 2 年度事業報告

- テーマ研究会
「食」、「災害対応」をテーマに、3×3 Lab Future(大手町)にて開催。
・ 開催日: DAY1) 令和 2 年 7 月 9 日 / DAY2) 令和 2 年 7 月 16 日

- ・ DAY2に、富山泰庸フェローがゲスト講師として登壇
- ・ 事業開発フォローアップのグループ研究にて中村正明アドバイザーが視察コーディネートなどサポート

【災害対応の研究会】

- ・ 開催日:DAY1)令和2年10月09日/ DAY2)令和2年10月23日
- ・ DAY2に、植木力常務理事がゲスト講師として登壇

● 社会デザイン・アントレプレナーズ・カフェ「食」をテーマにオンラインで開催。

【第1回】

- ・ 開催日:令和2年11月17日
- ・ ゲスト講師:河野通洋フェロー

【第2回】

- ・ 開催日:令和3年2月8日
- ・ ゲスト講師:畦地履正フェロー

● 東日本大震災10年後特別イベント

東日本大震災発災から10年を迎える年3月11日に、復興の現状と課題、そして既に始まっている新しい挑戦を共有・交換し、地域内外でどのような協働、共助、連携が考えられるかを創発する場として、岩手県陸前高田市、福島県南相馬市、宮城県気仙沼市の三地点を中継するオンラインイベントを開催。中村陽一常任顧問、町野弘明専務理事をモデレーターに、河野通洋フェロー、田村満フェロー、富山泰庸フェローが登壇。

(2) 令和3年度事業計画

● テーマ研究会

「環境」をテーマに、3×3 Lab Future(大手町)とオンラインにて開催。

【環境の研究会】

- ・ 開催日:DAY1)令和3年4月19日/ DAY2)令和3年5月13日
- ・ DAY2に、小田兼利顧問、染谷ゆみフェローがゲスト講師として登壇

● 事業化/組織化推進

活動ユニットの創発による連合/連帯組織形成の観点から、プラットフォームとしての公益法人化への協力を前提に、公的資金などのシーズマネー獲得によるフラッグシップ・プロジェクトの開発など、連携推進を行う。

(ウ) [丸の内プラチナ大学](#)

平成 28 年より展開される丸の内のビジネスパーソンを対象としたキャリア講座。社会的課題解決をテーマとした様々な講座を展開。一般社団法人エコツツエリア協会、三菱総合研究所プラチナ社会研究所(三菱地所株式会社、他)、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークの三社で運営。SBNは、未来志向型ビジネスや、新しい生き方・働き方を実践するソーシャル・アントレプレナーと語り合う「Social SHIFT テーブル・コース」、企業における SDGs 手法を実践的に学ぶことのできる「SDGs 経営実践コース」の 2 つの連続講座を

(1) 令和2年度事業報告

[第5期](#)として以下 2 講座を開催。新型コロナウイルスの感染拡大を考慮しオンラインにて展開。

【Social SHIFT テーブル・コース】

- 開催日、ゲスト講師：
 - ・ 10月16日：高津玉枝フェロー
 - ・ 10月23日：富山泰庸フェロー
 - ・ 10月30日：石田達也フェロー
 - ・ 11月6日：杉浦裕樹フェロー
 - ・ 11月13日：株式会社リヴァ代表取締役 伊藤崇氏
- 講師：石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局

【SDGs 経営実践コース】

- 講師：笹谷秀光(千葉商科大学教授、株式会社伊藤園 元取締役、日本経営倫理会理事、グローバルビジネス学会理事、サステナビリティ日本フォーラム理事)
- 開催日：11月11日、11月25日、12月23日、1月13日

(2) 令和3年度事業計画

[第6期](#)として以下 2 講座を開催。引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を考慮しオンラインにて展開。

【Social SHIFT テーブル・コース】

- 開催日、ゲスト講師：
 - ・ 12月10日：町野弘明専務理事、河野通洋フェロー
 - ・ 1月14日：池本修悟フェロー
 - ・ 1月21日：鈴木均理事
 - ・ 2月4日：倉増京平フェロー
- 講師：石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局

【SDGs 経営実践コース】

- 講師：笹谷秀光(千葉商科大学教授、株式会社伊藤園 元取締役、日本経営倫理会理事、グローバルビジネス学会理事、サステナビリティ日本フォーラム理事)
- 開催日：9月21日、10月26日、11月9日、1月18日

1.1.3 フォーラム

令和2年度は、「ソーシャルビジネス白書」第1号の発行に向けた準備を意図し、総会后、コロナ禍でのソーシャルビジネスの現状に関する聞き取りを意図したオンラインフォーラムを開催。

- タイトル: ウィズコロナ時代におけるソーシャルビジネスのあり方を考えるセッション
- 登壇者: 中村陽一 常任顧問、川北秀人 理事、植木力 常務理事、町野弘明 専務理事
- 開催日時: 8月27日

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況により開催を検討。

1.1.4 コミュニティ

(ア) 自然エネルギー・シフト コミュニティ

担当である鈴木亨理事を中心に、小出浩平フェロー、大場龍夫フェローと共に、プロジェクト・プロデュース型で地域案件をベースに展開を推進。令和2年度以降は、『ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代の理想の社会を描く～持続可能で自律分散化できる処方箋とは?』をテーマとした勉強会をオンラインにて開催。

(1) 令和2年度事業報告

メンバーが話を聞いてみたいゲストを招く、『ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代の理想の社会を描く～持続可能で自律分散化できる処方箋とは?』をテーマとした勉強会を、一般公開する形で展開

- 第1回: 9月24日 熊野英介 副代表理事
- 第2回: 10月20日 認定NPO法人環境エネルギー政策研究所 飯田 哲也 氏
- 第3回: 11月16日 日野公三 理事
- 第4回: 1月26日 国立環境研究所 社会環境システム研究センター室長 増井利彦 氏
- 第5回: 2月16日 NPO 法人南房総リパブリック理事長 馬場未織 氏

(2) 令和3年度事業計画

昨年度に続き『ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代の理想の社会を描く～持続可能で自律分散化できる処方箋とは?』をテーマとした勉強会を、一般公開する形で展開。

- 第6回: 4月8日 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長 神野正博 氏
- 第7回: 5月20日 横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 都市イノベーション部門 特任准教授 有吉亮 氏
- 第8回: 6月11日 外資系設計ソリューション会社 社員、国立大学 研究員 兼平靖夫 氏

今後は、樋口哲朗アドバイザーより紹介のあった、[一般社団法人サステナビリティダイアログ](#)が推進する[ワークショップ](#)を、山梨県道志村や岩手県陸前高田市などこれまで関係のあった地域を想定した形で展開することを検討。

(イ) 障がい者雇用コミュニティ

障がい者雇用を中心としたテーマ領域で、ソーシャルビジネスとしてのスケールアウトと関係するプレイヤーの拡充を図ることを目的としたコミュニティ。令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により推進を見送った。令和 3 年度も引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、推進を検討する。

1.2 [社会事業家 100 人インタビュー](#)

川北秀人理事が代表を務める IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]の協働事業として開催する、先輩社会事業家からビジネスモデルを学ぶための連続対話型講座。平成 24 年にスタートし、第 65 回まで開催。令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、開催を見送った。令和 3 年度も引き続き新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、開催を検討する。

1.3 政策提言(アドボカシー活動)の推進

1.3.1 [「ソーシャルビジネス白書」](#)の発行

川北秀人理事の発案のもと、政策提言(アドボカシー活動)として、「ソーシャルビジネス白書」を発行すべく、川北理事を編集長に、中村陽一常任顧問(委員長)、宮城治男理事、町野弘明常務理事を委員とした委員会を形成。ソーシャルビジネスに関する実態調査(回答数 131 団体)の結果をもとに令和元年 6 月「ソーシャルビジネス白書」(0 号)を発行。令和 2 年度は社会的企業家へのインタビューを含めた第 1 号の発行を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により計画通りの推進に至らなかった。令和 3 年度も引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、推進を検討する。

1.3.2 [「首都圏若者サポートネットワーク」](#)への協力

社会的養護を取り巻く課題から家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者の自立を支援する取組みとして「首都圏若者サポートネットワーク」が設立され、池田徹 顧問(ユニバーサル志縁センター代表理事)、からの要請で、「首都圏若者サポートネットワーク」の事務局長を務める池本修悟フェローと共に広報や就労支援などの協力を検討した。

【新規展開事業】

1.4 令和3年度からの当面の事業計画案

設立10周年を迎えるにあたり、新たな趣意書のもとに経済団体から、ソーシャル・プロデュースによる倫理的経済先導団体へと方向転換を図る。

またこの間、第二期趣意書(案)のもとに理事やフェロー等と協議した内容に基づき、以下の事業展開を図る。

新たな社会経済システム/モデルやその実践に関するビジョン等の研究・学び・広報・提言

(展開案)

- 新たな社会経済システム研究会(含・フィールドワーク)及びアーカイブ展開(熊野英介副代表理事)
- ソーシャルビジネス/プロデュース人材育成
…次世代育成(SDGs/ソーシャルビジネス教育)の推進(石田達也フェロー)ほか
- 社会的金融/ソーシャルインパクト評価に関する研究(岩坂健志フェロー)
- コミュニティオーガナイズングに関する研究(池本修悟フェロー)

(継続展開)

- ソーシャルビジネス白書(継続)ほか

「ソーシャルタウン」構築や「シフトラボ」事業等のソーシャル・プロデュース事業の展開と新たな開発

(展開案)

- 二地点居住、サテライトオフィスの推進(植木力常務理事)
- ユニバーサル就労の推進(池本修悟フェロー)
- 一人親支援、女性支援事業の推進(堤香苗フェロー)
- 公共調達の推進(川北秀人理事)
- 地域におけるソーシャルイノベーション(事業開発・創業支援、人材育成等)の推進(河西邦人フェロー)

(継続展開)

- 「発酵パーク CAMOCY」や「ユニバーサル就労支援センター」、新たな地域ブランド化の推進等による、“誰にも居場所と出番がある”持続可能な創造的復興のまち「ユニバーサル・タウン」(陸前高田市)展開
- 就職氷河期世代の再チャレンジ支援を「ライフデザイン法」やIT教育プログラム等によって推進する、誰もが人生の再編集/再設計を図ることにより未来を描けるまち「ライフデザイン・ビレッジ」(静岡市)展開
- 日本IBM社が提供するIT人材育成プログラムにより、就職氷河期世代を始めとするあら



ゆる就業困難者に、オンラインでの IT・社会人スキルを身に着ける機会を提供し、就業支援を図る「SkillsBuild」事業の全国展開

多様な活動ユニット/コミュニティの創発による連合/連帯組織形成の展開とシナジー事業等の新たな組成

(展開案)

- 新たな社会的企業の巻き込み(例として勉強会の開催)(古賀敦之フェロー)
- 経団連やその他経済団体、大手企業との連携推進(関正雄理事)
- ローカル企業伴走事業の推進([一般社団法人 Work Design Lab](#)との連携)(倉増京平フェロー)

(継続展開)

- 「社会デザイン・ビジネスラボ」との連携展開…立教大学・JSOL 社ほかとのコラボレーション
- 「6次化デザイン・ラボ(仮称)」の組成検討…東京農業大学ほかとのコラボレーション
- 「自然エネルギービジネス・コミュニティ」の活動展開…オンライン研究会「理想社会フォーラム」推進ほか

2 組織運営報告・組織運営計画

1.1. 会員について

会員A:5社、法人会員 B:7社、個人会員 22 口という状況であった。

会費に加え、講座やイベント等での登壇や人材紹介、会場提供等、様々なファシリティ提供や協力を得た。

1.2. 広報・PR

引き続き、メールマガジンやフェイスブック等での情報発信を行ってきた。

1.3. 定例会議

計画に基づき定例会議を開催した。

【開催日程】

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者 (定足数)
社員総会	令和2年 8 月 27 日(オンライン)	第 1 号議案: 人事について 第 2 号議案: 平成 30 年度事業活動報告 第 3 号議案: 平成 30 年度事業収支報告 第 4 号議案: 平成 31 年度事業活動計画 第 5 号議案: 平成 31 年度事業収支計画	社員 109 名中、出席 25 名、委任 30 名、計 55 名
理事会	令和2年 8 月 27 日(オンライン)	第 1 号議案: 顧問、フェロー、アドバイザーの人事について	理事 20 名中、出席 12 名、計 12 名